

挑戦する企業



建設業の巴山組(とちやまぐみ、新潟県阿賀町、猪俣社長)が今夏にも、地元産ツバキを使ったツバキオイルを発売する。「ユキツバキ」発祥の地である阿賀町で、新たな特産品につながるのが狙いだ。かつて比べて公共工事が激減する中、地産地消による製品開発で雇用維持を図る。

「ようやくプロジェクトが本格的に動き出す」。こう語るのは猪俣一成取締役。今夏の発売を目指す「アガノユキツバキ」は圧力だけで搾油した純度100%のツバキオイルだ。植えてから3年以上が経過しない

巴山組

旅館にも地元産のツバキオイルを販売し、観光客に観光的な魅力を伝える



アガノユキツバキ

ツバキ油特産品に

地産地消で雇用維持へ

▽本社所在地―新潟県阿賀町日合乙2485
▽代表者名―猪俣茂
▽従業員数―85人
▽売上高―約13億円(2012年8月期)

て、料理に使ってもらいたい」とも視野に入れる。製造認可の関係で、食品用として製造するが肌に塗って使うことも可能と見ている。

現在では県木となったユキツバキだが、発祥の地は阿賀町とされる。気温が氷点下になりにくい雪の下に

と実がつかないため、まずは阿賀町に自生するユキツバキを使い商品化する。国土交通省の「建設企業連携」によるフロンティア事業」に採択され、本間造(新潟市)と2011年に取り組み始めた。2年間

で交付された補助金1000万円を使い、搾油機械などを導入、栽培ノウハウを共有しながら事業を進めてきた。地元の旅館などの販売する計画だ。オレイン酸を豊富に含むため地元の飲食店と連携し

埋もれて冬を越す植物で、生息域は新潟など日本海側の一部地域に限られる。売りが先として期待する旅館がある麒麟山温泉は、「観光で来てくれても買いたくないおみやげが少なかった」という状態。だが、「採算がとれるまでにはもう数年かかる」と、猪俣一成取締役は期待する。(南野毅)

新潟

新潟支局 0255-222-1754
長岡支局 0258-37-1000